

# 被災地の聴覚障害者知って

映画の上映前に手話で観客に語りかける今村彩子  
監督―岐阜市橋本町のハートフルスクエア―Gで



東日本大震災で被災した聴覚障害者の体験や苦勞を描いたドキュメンタリー映画「架け橋 きこえなかった3・11」の上映会が二十八日、岐

「架け橋」の監督  
今村

阜市橋本町のハートフルスクエア―Gであり、監督の今村彩子さん(三十五)―名古屋市緑区―が作品への思いを語った。  
(宇佐美尚)

## 岐阜で上映会、思いを語る

自身も耳が不自由なユーを通して、津波警覚障害者の男性が主人公。今村さんは、手話を交報を知らせるサイレン公。一時は過勞で倒れえながら取材の過程やに気付かなかったこの男性が元氣を取り戻見どころを紹介。約百と、避難所での指示やして、笑顔で走る映像二十人の来場者に「地案内が分からなかったが印象的だ。五月に地元といていい岐阜でこと、電子メールが使イッであった日本映画上映会ができて幸せ。えず情報が得られな専門映画祭のニッポン映像を見て、皆さんもったことなどの問題点ビジョン部門では三位架け橋になってほしが浮き彫りになった。の評価を受けた。今村い」と呼び掛けた。映画では、これらの点さんは「被災地にも聴震災発生後、大被害を「命にかかわる情報 覚障害者がいたことを埋もれがちな聴覚障に格差があってはなら知ってもらおうのが最害者の存在も知ってほない」と訴えている。初。そこから聴覚障害しいと取材に向かっ 今回の作品は、仲間者の不自由さに気付いた。被災者のインタビの支援に走り回った聴てほしい」と話した。